

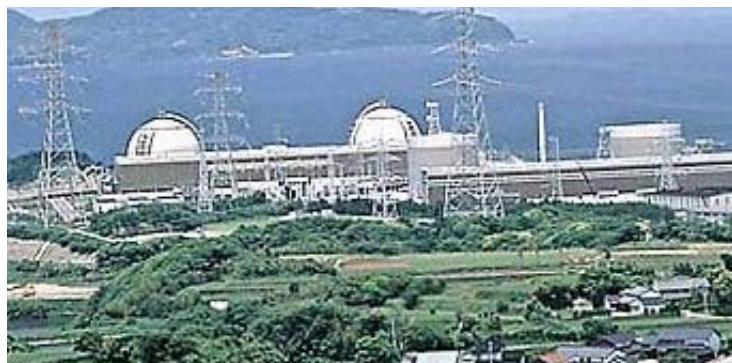
松浦民報

2011年7月

発行 日本共産党松浦市委員会 電話・FAX 0956-75-1947
ブログ「ゆう子のひろば」<http://pub.ne.jp/yukoya/>
日本共産党松浦市委員会の見解を紹介します。



日本共産党松浦市議会議員
安江ゆう子の
市議会だより



玄海原子力発電所 (ホーム・ページより)

島原発事故は、玄海原発を目の前にする松浦市民にとつては遠い東北の事故ではなく、まったくよそじとは思えない」「福島原発事故は、いまだ収束していないどころか、まだ継続している」と述べ、市長に原発の「安全神話」について質問

6月3日から6月20日の定例6月市議会で、日本共産党の安江ゆう子市議は、原発問題、つばき荘の温泉優待券、強権的な税の徴収について、一般質問を行いました。

安江ゆう子市議は、「福

しました。

安江 国や電力会社は

「原子力発電は五重の防御で安全。事故など起こるはずがない」と言い続けてきました。しかしそうではないかった。「安全神話」は崩れないと言われていますが、市長の認識はどうですか。

市長 広い範囲で長期にわたって大きな影響を及ぼしている現状を見ますと、「安全神話」は私は完全に

崩れたという認識を持って

いる。

安江 「安全神話」が崩

れた今こそ、防災計画の大前提である事故は起ころうとした。しかしそうではなく、このことを市民に周知徹底させる考えはありますか。

市長 福島第1原子力発電所の事故からいたしますと、そこから辺りについては十分議論する必要があると思います。

原子力の推進機関から完全に分離した規制機関を

「安全神話」が崩れ、安全基準の見直しの対応がとられるまで玄海原発2号機と3号機の再稼働は認められない迫った安江ゆう子市議。

玄海原発の2号機、3号機の運転再開をやめよ

市長は、「1号機、4号機は既に運転をしており、2号機、3号機ということもなくして1号機から4号機までの安全が確保されることがしつかり対応していたときたい」と答えました。

・保安院があるところのは好みしないんじやないかといふ報道もなされており受け止めています。

1994年に「原子力の安全に関する条約」が結ばれ、原子力発電の「推進機関」と「規制機関」の分離を義務づけました。しかし日本では「規制機関（原子力安全・保安院）」が原子力の推進である経済・産業の組織として、原子力安全

省の一部門にあり、国際条約違反を続けてきました。

安江 国にたいして、独

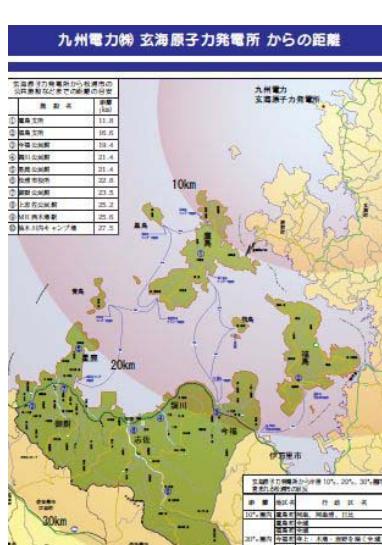
立した権限を持つ原子力規制機関からの説明を要求すべきだと思いませんか。

市長 経済産業省の一つ

九州電力㈱ 玄海原子力発電所からの距離
市報7月号に掲載

「うちの家は玄海原発からどのくらいやろうか」と心配の声。安江ゆう子市議は、住民一人ひとりに情報の徹底をと質問。市長は「自分の住まいがどこ位置にあるかということを認識しても

う子市議は、住民一人ひとりに情報の徹底をと質問。市長は「自分の住まいがどこ位置にあるかということを認識しても」ということを認識してもらいたい」と答えました。



の情報を自分のものとして把握していくだけになるとになる」とことになりました。答弁。市報7月号に「玄海原発からの距離」が載りました。

原発の「安全神話」は完全に崩れた